

ダニエル書 第二百二十七号

邪悪な同盟の預言的特質の解明：イザヤからの洞察

Jeff Pippenger

2024-03-10

イザヤが指摘したように、竜の預言的な特徴は連合である。

結集せよ、民よ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう。耳を傾けよ、遠い国々のすべてよ。帯を締めよ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう。帯を締めよ、しかしおまえたちは打ち砕かれよう。共に謀をめぐらせよ、しかしそれは無に帰する。言葉を発せよ、しかしそれは成り立たない。神が我らと共におられるからだ。

主は力ある御手をもって私にこう語り、この民の道を歩むなと私を戒めて言われた。この民が「陰謀だ」と言う者どもに向かって、あなたがたは「陰謀だ」と言うな。彼らが恐れるものを恐れるな、おののくな。万軍の主ご自身を聖とせよ。彼こそあなたがたの恐れとし、あなたがたのおののきとせよ。彼は聖所となる。しかし、イスラエルの両の家にはつまずきの石、つまずかせる岩となり、エルサレムの住民には罨と網となる。そのうち多くの者がつまずき、倒れ、砕かれ、罨にかかり、捕えられる。証しをとどめ、律法を私の弟子たちのうちに封印せよ。イザヤ書 8:9-16

終わりの時、十四万四千人の封印の時に、イザヤが「証しを固く巻き、律法を私の弟子たちのうちに封じよ」と言うとき、この地球上には「邪悪な同盟」がある。アメリカ合衆国が日曜法へと至る歴史は、同じ出来事が世界規模で起こることを予表しているのだと理解することが重要である。

「諸外国はアメリカ合衆国の手本に倣うだろう。たとえ米国が先頭に立つとしても、同じ危機が世界の至る所で私たちの民に及ぶであろう。」『証言』第6巻、395頁。

ホワイト姉妹は「悪しき同盟」が何であるかを慎重に特定しており、それは現代のグローバリストの進歩的自由主義を指している。彼女はその際、イザヤ書の前の節々を繰り返し引用しており、それらは、十四万四千人が封印される時における悪しき同盟を特定している。

主は預言者イザヤを通して宣言する：イザヤ書8章9～13節引用。

「キリスト者がフリーメイソンやその他の秘密結社に所属することが正しいのかどうかを疑問に思う人々がいる。そうしたすべての人は、先に引用した聖句をよく考えなさい。そもそも私たちがキリスト者であるなら、どこにあってもキリスト者でなければならず、神の御言葉の規準になかったキリスト者となるように与えられている勧告をよく考え、心に留めて従わなければならない。」『Evangelism』617、618。

終末時代の邪悪な同盟は、フリーメイソンや他の秘密結社と結びついている。その宗教は心霊主義であり、世界の富と権力を「集中させる」世界の銀行家と、世界の億万長者である商人たちで構成されている。彼らは、「世界的規模」で「不穏、暴動、流血の精神」を煽り立てるために、アンティファやブラック・ライブズ・マターのような運動を推進し、「フランス革命」の無政府状態を再現しようとしている。

心霊主義は、人間は墮落していない半神であると主張し、「各々の心は自らを裁く」「真の知識は人間をあらゆる法の上に置く」「犯されたすべての罪は罪には当たらない」と言う。なぜなら「存在するものは何であれ正しい」し、「神は断罪しない」からである。最も下劣な人間でさえ天国にいて、そこで非常に高められているかのように描く。こうしてそれは、すべての人に「何をしようとかまわない。好きなように生きよ。天国はあなたの故郷だ」と宣言する。このようにして多くの人々は、欲望こそが最高の法であり、放縦こそが自由であり、人間は自分自身にのみ責任を負うのだと信じるように導かれる。

「衝動が最も強く、自制と純潔が最も切実に求められる人生のごく初めに、このような教えが与えられるなら、美德を守るための保障はどこにあるのか。何が世を第二のソドムと化すのを防ぐのか。同時に、無政府の風潮は、神の法のみならず人の法までもことごとく掃き去ろうとしている。富と権力の集中、少数者が多数者を犠牲にして富むための巨大な結託、自らの利害と要求を擁護するための貧しい階級の結集、不安・暴動・流血の気運、フランス革命を引き起こしたのと同じ教えの世界的な流布—こうしたすべてのものが、フランスを激動させたのと同様の闘争へ、全世界を巻き込もうとしている。」『教育』227、228。

思慮ある人なら誰しも、自問すべきだ。つい最近ダボスで開かれたような、地球上の他の人々を一切顧みずに地球のための計画を語る男たちが集う会合では、いったい何が行われているのか？ そこでどんな秘密が語られたのか？ もちろん、ダボスは、世界の億万長者や銀行家、腐敗した政治家、そして道徳的に歪んだ男たちが、地球のための高邁な計画を練る、いくつもある秘密の閉鎖的会合のひとつにすぎない。

この終わりの時代に、奇妙な誤謬や人為的な理論が現れ出ており、神はそれらが粉々に打ち砕かれると宣言しておられる。貪欲の霊が人々を世の利得を求めようとしてきた。彼らは目的を達するために行った悪事を、贅沢と見せびらかしによって隠そうとしてきた。高い信頼を託された地位にある人々が、この不法な利得への欲望を露わにし、恐喝や強奪を働き、心の邪悪な情念を満たしてきた結果、私たちの都市は彼らの悪によって腐敗してしまった。神は、彼ら自身の働きによって、これらの欺きと略奪のわがが明るみに出されると宣言しておられる。場合によっては、神の裁きがすでにこれらの都市に重く下っている。

イザヤ書8章8～12節を引用。レビュー・アンド・ヘラルド、1907年7月18日。

前の箇所ですべて予言されているとおおり、都市は墮落している。そしてその墮落は、イザヤ書第八章の邪悪な結託によってもたらされた。都市は、「高い信任の地位を占める者たち」によって墮落させられてきた。彼らは自らの「不法な利得への欲望」を「露わにした」。ジョージ・ソロスのような共産主義者からの資金提供で州司法長官が当選した州において、その墮落した都市は容易に見て取れる。ワシントンD.C.の腐敗した政治家によって既存の法律が執行されないときにも、それは見て取れる。ナンシー・ペロシやアダム・シフのような人物に示されるように、政治的スペクトラムの反対側にいる者たちにも適用される法律にも、それは見て取れる。

主に背き、主に逆らって偽りを語り、私たちの神から離れ、虐げと反逆を口にし、心に偽りの言葉を企てて吐く。さばきは退けられ、義は遠く立つ。真理は通りに倒れ、公

平は入り込めないからである。まことに、真理は失せ、悪から離れる者は獲物とされる。主はこれを見られ、さばきのないのを御心にかなわぬこととされた。イザヤ書 59:13-15.

Review and Herald の前の一節では、高い信任の地位にある人々が、ウォール街でのポートフォリオの成績が常に考え得る最高の収益率を上回っている腐敗した政治家たちを指摘している。彼らがそうした成績を上げるのは、自分たち自身にだけ「インサイダー取引」を合法化するための立法に携わってきたからであり、他の誰のためでもない。マーサ・スチュワートの経歴を振り返ってみてほしい。その一節に出てくる都市は、その邪悪さによって墮落しており、とりわけグローバリストの民主党によって統治されている都市や州でそれが顕著である。

終末の時代における邪悪な同盟は、竜と獣と偽預言者から成り、獣と偽預言者にはそれぞれ固有の邪悪な預言的特徴があるが、リベラルなグローバリズムに特に顕著に現れている特徴は、竜の特質である。

黙示録17章13-14節を引用。「彼らは一つの思いを持っている。」普遍的な結束、一つの大いなる調和、サタンの勢力の連合が生じるであろう。「そして彼らは自分たちの権力と力を獣に与えるであろう。」このようにして、宗教の自由、すなわち良心の命ずるところに従って神を礼拝する自由に敵対する、同じ恣意的で圧制的な権力が現れるのである。これは、過去において、ローマ教皇制が、ローマ主義の宗教儀礼と典礼に同調することを敢えて拒んだ者たちを迫害したときに示したものと同じである。

終末に行われる戦いにおいては、エホバの律法への忠誠から背教したあらゆる腐敗した勢力が、神の民に敵対して連合する。この戦いでは、第四の戒めである安息日が最大の争点となる。というのも、安息日の戒めの中で、偉大なる律法の与え主がご自身を天と地の創造主として示しておられるからである。

セブンスデー・アドベンチスト聖書注解、983.

私たちは、以下の記事で獣と背教的プロテスタントの預言的特徴を考察する。日曜法の強制において、どの政党が主導し、背後で糸を引いているのかについて明らかにされていることを見極めることが重要である。もちろん、両党（民主党と共和党）は日曜法の問題では一致する。ちょうど十字架においてパリサイ人とサドカイ人がそうしたように。しかし、プロテスタント、あるいは背教的プロテスタントというレッテルを民主党に結びつけるべき正当な理由はない。なぜなら、民主党は明らかに竜の勢力だからである。

十四万四千人の封印の歴史とは、イザヤ書8章の邪悪な同盟が特定される歴史である。その歴史は、第四の大統領であるブッシュ二世が政権を握っていた2001年9月11日に始まった。その歴史においては、第六の大統領が2016年に現れ、彼はギリシャの全域を目覚めさせ（奮い立たせ）る。というのも、彼は、竜の勢力と、獣を地の王座へ復位させる働きを成し遂げる背教的プロテスタントとの闘いに、世界を目覚めさせるからである。

トランプに対する盲目的で理性を欠いた憎悪は、不誠実さと非合理的な理屈に基づいているため、多くの人々によって一種の狂気と見なされている。世界はトランプに対する正当化できない憎悪を定義しようとするが、現実には、それはグローバリストによる単なる人間的な狂気ではなく、十四万四千人の封印の歴史における預言成就の超自然的な現れ

である。

ああ、神の民が、いまやほとんど偶像礼拝に陥っている幾千もの都市に迫る滅びを悟っていたなら！ しかし、真理を宣べ伝えるべき多くの者たちが、兄弟を告発し、断罪している。神の回心させる力が人の心に臨むとき、明確な変化が起こる。人々は、批判したり、壊そうとしたりする気持ちを持たなくなる。彼らは、光が世界に輝くのを妨げる立場には立たない。彼らの批判も、告発も、やむ。敵の勢力は戦いに向けて集結している。厳しい戦いが私たちの前に控えている。固く結束しなさい、兄弟姉妹たちよ、固く結束しなさい。キリストと一つに結ばれなさい。「『陰謀だ、と言ってはならない。…彼らの恐れるものを恐れるな、おののくな。万軍の主を聖とせよ。彼をあなたがたの恐れとし、あなたがたのおののきとせよ。彼は聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にはつまずきの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には網となり、罟となる。彼らの多くはつまずき、倒れ、砕かれ、わなにかかり、捕らえられる。』」

世界は舞台である。その役者たち、すなわちその住人は、最後の大きいなる劇で自らの役を演じる準備をしている。神は人々の視界から消えている。人類の大多数においては、利己的な目的を達成するために人々が結託する場合を除いて、何の一致もない。神は見えておられる。反逆する者たちに関する神の御旨は必ず成就する。神が混乱と無秩序の諸要素にしばしの間、支配を振るわせることをお許しになっているとしても、この世界は人間の手に渡されたのではない。地の底からの力が、劇の最後の大きいなる場面を引き起こそうとして働いている。すなわち、サタンがキリストとして現れ、秘密結社で互いに結束している者たちのうちに、不義のあらゆる欺きとともに働くのである。結託への情熱に身を委ねている者たちは、敵の計画を実行している。原因には結果が伴う。

「不法はほとんど極みに達した。混乱が世界を満たし、間もなく大きい恐怖が人類に臨もうとしている。終わりは非常に近い。真理を知る私たちは、間もなく世界に圧倒的な驚きとして突然押し寄せる事態に備えるべきである。」レビュー・アンド・ヘラルド、1903年9月10日。

「第三の災いのイスラム」が「数千の都市」をまさに襲おうとしており、ラオデキア的アドベンチズムは差し迫った破壊が起ころうとしていることに全く気づいていない。イザヤの邪悪な同盟がその働きを成し遂げている時期には、「下からの」サタンの「力」が「ドラマの最後の偉大な場面をもたらすために働いて」おり、これらは「圧倒的な不意打ち」としてやって来る。トランプに向けられている狂気は、下からの力によって引き起こされている。それは地球史の最後の場面の構成要素である。

これはトランプへの支持と受け取るべきではありません。これはただ、決して失敗することのない神の御言葉です。十四万四千人への封印の期間中、神はいと高き所からその力を注ぎ出しておられ、一方でサタンは下から自らの力を行使しています。

「もし私たちが第三の天使のメッセージの霊と力を持つためには、律法と福音を共に提示しなければならない。なぜなら、それらは手を取り合っているからである。下からの力が不従順の子らをかき立てて神の律法を無効にし、キリストが私たちの義であるという真理を踏みにじらせている一方で、上からの力は忠実な者たちの心に働きかけ、律法を高く掲げ、イエスを完全な救い主として高く掲げさせている。もし神の民の

経験の中に神の力がもたらされないなら、偽りの理論や思想が人の心をつらえ、多くの人々の経験からキリストとその義が押し出され、彼らの信仰は力も命もないものとなるであろう。」 Gospel Workers, 161.

近く制定される日曜法の前に、そしてそれへと至る過程で起こるサタンの力の現れは、近く制定される日曜法の際に起こるサタンの力の頂点となる行為を象徴している。

「神の律法に反して教皇制度の確立を強制する布告によって、わたしたちの国は義と完全に縁を切ることになる。プロテスタント主義が深い隔たりを越えてローマの権勢の手を取ろうと手を差し伸べ、さらに深淵を越えて心霊主義と手を結び、この三重の連合の影響のもとに、わが国がプロテスタントかつ共和政の政府としての憲法のあらゆる原則を否認し、教皇的な虚偽と惑わしの流布のための規定を設けると、わたしたちは、サタンの驚異的な働きがなされる時が来ており、終わりが近いことを知るのである。」 『証言』 第5巻、451頁。

現在、下から湧き出ており、米国における竜の代理人であるグローバリストたちの中にその働きを現している動機は、日曜法が到来した後、世界の諸国でも再現されるだろう。今でさえ、世界の諸国はトランプをめぐって同じ超自然的な狂気を示している。

「諸外国はアメリカ合衆国の手本に倣うだろう。たとえ米国が先頭に立つとしても、同じ危機が世界の至る所で私たちの民に及ぶであろう。」 『証言』 第6巻、395頁。

米国の共和党員が、トランプに対する非論理的な反対における民主党側の態度を狂気だと規定しているが、実はそれはダニエル書11章2節の成就としてのサタンの力の超自然的な顕現である。1989年の「終わりの時」以来の6人目の大統領であるトランプは、全世界の社会主義的グローバリストたちを「奮い立たせる（目覚めさせる）」はずだった。彼に向けられる憎悪は超自然的なものであり、それは間もなく到来する日曜法において、さらに大規模に現れるサタンの力の顕現の前兆となっている。

ホワイト夫人の記述によれば、下からの力の現れは、イザヤ書8章でイザヤが警告している悪しき同盟の期間に起こり、その時期に神の民の封印が行われている。

証しを綴じ、律法をわたしの弟子たちの間で封じよ。イザヤ書 8:16

次回の記事でこの研究を続けます。

奇跡を行う悪霊の力のしるしとして、超自然的な恐るべき光景が、まもなく天に現れるだろう。悪霊たちは地の王たちや全世界の人々のもとへ出て行き、彼らを欺きに絡め取り、天の統治に対してサタンが挑む最後の闘いにおいて彼と結束するよう駆り立てる。こうした勢力によって、支配者も臣民も等しく欺かれる。自分こそキリストそのものであると装い、世の贖い主に属する称号と礼拝を要求する者たちが現れる。彼らは驚くべき癒しの奇跡を行い、聖書の証言に反する天からの啓示を受けたと主張するだろう。

大いなる欺きの劇の頂点として、サタン自身がキリストに成りすます。教会は長い間、救い主の再臨を希望の成就として待ち望むと公言してきた。今や、この大いなる欺く者は、キリストが来られたかのように見せかける。地の各地で、サタンはまばゆい輝きを放つ威厳ある存在として人々の間に現れ、ヨハネが黙示録で記した神の子の描

写に似せる。黙示録1:13-15. 彼を取り巻く栄光は、これまで人間の目が見たどんなものにも比類ない。勝利の叫びが空中に響き渡る。「キリストが来られた！キリストが来られた！」人々は彼の前にひれ伏して礼拝し、彼は地上におられたときのキリストが弟子たちを祝福されたように、両手を上げて彼らに祝福を告げる。その声は柔らかく落ち着いていながら、調べに満ちている。優しく憐れみ深い口調で、救い主が語られたのと同じ恵みに満ちた天の真理のいくつかを述べ、人々の病を癒す。そして、キリストを装ったその立場で、安息日を日曜日に変えたと主張し、自分が祝福したその日をすべての者が聖とするよう命じる。彼は、第七日を聖とし続ける者たちは、光と真理を携えて彼らのもとに遣わされた自分の天使たちに耳を貸そうとしないことで、自分の名を冒瀆しているのだと宣言する。これは強力で、ほとんど圧倒的な惑わしである。魔術師シモンに欺かれたサマリア人のように、群衆は小さな者から大きな者に至るまでこの妖術に耳を傾け、『これは神の大いなる力だ』と言う。使徒行伝8:10。

しかし、神の民は惑わされない。この偽キリストの教えは聖書にかなっていない。彼は、獣とその像の礼拝者たちに祝福を宣言するが、彼らこそ、聖書が神の混じりけのない御怒りが注ぎ出されると宣言している、まさにその人々である。『大いなる論争』624, 625。